

## 甲賀市・湖南市地域の医療と歴史・文化を学ぶ宿泊研修を実施しました。

2026年3月26日

3月17日（火）に、甲賀市・湖南市地域を訪問させていただいた春の宿泊研修は日帰りで実施し、学生18名（滋賀医科大学医学科第1～3学年12名、看護学科第3学年2名、滋賀県立大学1～3年生4名）が参加しました。

### 【行程】

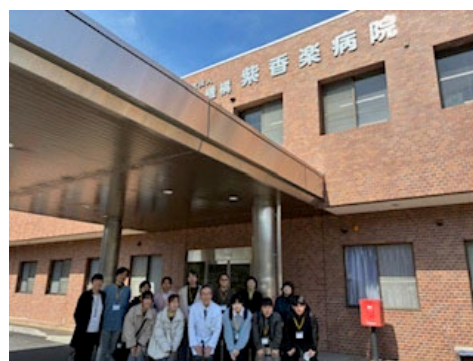
学生は紫香楽病院と信楽中央病院に分かれて研修を行いました。

#### ・紫香楽病院にて研修

紫香楽病院には医学科6名、看護学科4名の学生が訪問しました。

真田院長から紫香楽病院の歴史を含む概要をご説明いただきました。真田先生ご自身が衝撃を受けられた重症心身障害児（者）医療について、医療関係者となる学生には一度は必ずその様子を見学してほしいとお話いただき、病棟の看護師長さんからは、病棟での看護の様子をお話いただきました。

その後、病院内を見学させていただき、病棟や外来だけでなく、療育指導室のスヌーズレンなどを体験させていただきました。



- ・信楽中央病院にて研修

信楽中央病院には医学科 6 名、看護学科 2 名の学生が訪問しました。

北川院長から信楽地域の歴史を含めご紹介いただき、病院の概要について説明を受けました。その後、朝宮診療所へご案内いただき、朝宮診療所の在り方についてご説明いただきました。

また、最後に朝宮地域で有名な朝宮茶を造られている藤田園にて朝宮茶の説明を社長からご説明いただき、珍しい啜り茶器でお茶を淹れていただきました。



- ・地域散策

今回は信楽で有名な信楽焼の絵付け体験を行いました。皆さん、それぞれが真剣に絵付けされていたのが印象的でした。2〜3 ヶ月後に焼きあがってくるのが楽しみです。



続いて、遙か 1200 年以上前の奈良時代中ごろ、聖武天皇が首都である紫香樂宮造営した「紫香樂宮」の跡地（史跡紫香樂宮跡）を見学しました。



#### ・水口病院にて研修

午後から湖東・湖南・甲賀地域の精神科医療を担う精神科（単科）の病院である水口病院を訪問させていただきました。與那城看護部長から水口病院の概要についてご説明をいただき、年々患者が増加しているが、医師や看護師だけでなく多職種のチーム医療で立ち向い、急性期病院とは違った自立性の支援・回復を促す医療の提供をおこなっているとお話しいただきました。

その後、病院見学を行っていただきました。最後に青木院長からご挨拶があり、学生からの質問にも丁寧に答えていただき、経営の哲学についてもお話しいただきました。また、精神疾患に対して消えることのない偏見についても「偏見に対しては毅然とした態度が必要であり、精神疾患を知ってください」と、学生へメッセージをいただきました。





#### ・こうせい駅前診療所にて研修

研修の最後は、こうせい駅前診療所に訪問させていただきました。

まず初めに、しが医療生協理事・湖南甲賀支部長の立入様より「健康づくりをつくる・平和をつくる・いのち輝く社会をつくる」の取り組みについてお話いただきました。医療生協の取り組みについて理解してもらいたい、行政と一緒にやっていくことが大事と学生へ伝えていただきました。続いて、佐々木所長から施設の概要についてご説明をいただき、気候変動が今後どのように命に直結するのか講義いただきました。最後に診療所内を見学させていただいて、研修が終了しました。



今回も、地域の方々をはじめ、多くの医療関係者の方々にご協力いただき、地域医療について学びの多い研修となりました。この場をお借りして、ご協力頂きました皆様方に厚く御礼申し上げます。

豊かな自然に恵まれ、甲賀市・湖南市の方々の暖かな人柄に触れ、今回の研修を通じて、地域医療に従事する学生が一人でも多く活躍してくれることを切に期待しています。

(この研修は、NPO法人滋賀医療人育成協力機構及び滋賀県医師キャリアサポートセンターとの協同で実施しました。)

## 里親学生支援事業としての15回目の卒業生を送り出しました

2026年3月11日

令和8年3月10日(火)に令和7年度滋賀医科大学卒業式が挙行され、里親学生支援事業としては、15回目の卒業生(医学科16名、看護学科3名)を送り出しました。

学生たちが、それぞれの新しく進む道で活躍し、また、今度は自分たちが里親となり、後輩たちを支援してくれればと期待しています。



## 地域理解・交流事業「宿泊研修」日程決定（令和8年3月17日開催）

2026年2月6日

### 地域理解・交流事業「宿泊研修」日程

～甲賀市・湖南市地域方面の医療と歴史・文化を学ぶ～

#### ● 3月17日（火）

9:00 大学出発

↓

9:30～11:00 2班に分かれて研修 紫香楽病院 or 信楽中央病院（説明・見学）

↓

11:00～13:30 信楽地域の散策・昼食

↓

14:00～15:30 水口病院（説明・見学）

↓

16:00～17:30 こうせい駅前診療所（説明・見学）

↓

18:00 大学帰学

## 「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2025 第五弾！を実施しました。

2026年1月27日

2025年12月26日（金）16時30分から「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2025 第五弾！」を実施し、学部生15名、教職員4名の合計19名の参加がありました。

今回は、聖母病院 総合診療科 南郷栄秀先生から「何か専門を取ってから総合診療へ行ったほうがいいと言われましたが、そうなんですか？～ダブルボードとか EBM とかってカッコいいですよ～」をテーマにご講演いただきました。

総合診療専門医や家庭医療専門医等の取得などキャリアパスの比較についてメリット・デメリットを提示していただき、総合診療医になるまでの指針を分かり易くお話しいただきました。

参加学生からは「総合診療の方に進むか、別の領域に進むか、悩んでいる最中なので、将来のヒントになった」、「総合診療、家庭医療における EBM 実践に対する認識と視野が広がった」といった感想がありました。

講演後は、懇親会を開催し、意見交換や懇談を行い、盛況のうちに終了しました。



（この講演は 医学・看護学教育センター、滋賀県医師キャリアサポートセンター、NPO 法人 滋賀医療人育成協力機構との共催で実施しました）

## 「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2025 第四弾！を実施しました。

2026年1月15日

2025 年 11 月 21 日（金）16 時 30 分から「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2025 第四弾！」を実施し、学部生 18 名、教職員 8 名の合計 26 名の参加がありました。

今回は、2024 年 9 月より始動した浅井東診療所メンタルヘルスチーム「ここくら」から北川景都さん、寺村育美さん、川瀬佳奈さんをお招きし、「オープンダイアログを通して考えるチームでの対話のあり方」をテーマにご講演いただきました。

北川先生からは、子どもから高齢の方のメンタルヘルス患者には病名の付かないものが沢山あり、診察を行う上で、1 対 1 での対応には限界があり、フィンランドの精神病院で始まった『オープンダイアログ』を取り入れ、多声性・チームでの診療を大事にしておくことの大切さをお話いただきました。

川瀬看護師からは診療所の外来とメンタル外来の対応の違いについてや、メンタルヘルス診療は看護師でなくてもよいのでは？と意識変容を行い、ご自身の体験も交えながらメンタルヘルス診療への取り組みについてお話いただきました。

寺村ソーシャルワーカーからは、ソーシャルワーカーの仕事について説明いただき、対話や『正解に導く必要はなく、クライアント自身が選択したことが正解と思えるように』といったクライアントを尊重することの大切さをお話いただきました。

また最後に、リフレクティングや「黙って話を聞いてみる」ワークを行い、学生からは『話を聞いてる時に、聞きたいことや共感できるエピソードなどがあったが、相槌だけしかできないもどかしさを感じた。』と対話の難しさを体感することができました。

参加学生からは「今までの医療は医療従事者側から患者側へ一方的に医療を提供するのが主な流れであったが、患者と医療者が対話を重ね、患者が求める医療環境を共に作っていく必要があると思った」、「相談者側の考えが広がっていく様子が見れて興味深かったです。」といった感想があり、本講演は盛況のうちに終了しました。





(この講演は 医学・看護学教育センター、滋賀県医師キャリアサポートセンター、NPO 法人  
滋賀医療人育成協力機構との共催で実施しました)

## 令和7年度 里親学生支援事業 研修会・意見交換会を開催しました

2025年12月10日

12月7日（日）本学湖医会ラウンジにおいて「地域里親学生支援」事業の一環である「研修会・意見交換会」を開催しました。

研修会には里親の先生方、プチ里親、後援会役員の方々にご出席いただきました。

今回の研修会では、里親学生支援室長 相見 良成 教授から「里親学生支援事業のこれまでと、これからの取り組みについて」と題して、ご講演いただきました。

文部科学省の「平成19年度新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に地域医療を担う医師・看護師の育成をめざす地域参加型支援事業『地域「里親」による医学生支援プログラム』（里親 GP）が採択され、2007年11月から2011年3月の期限付きで文部科学省からの補助金を受けて実施してきた経緯などを説明しながら、これまでの取り組みをクリッカーを用いてクイズ形式に出題し、学生たちにも分かり易いようにお話いただきました。また、今後の本事業の取り組みやプチ里親の確保などについて意見交換を行いました。

引き続き、和やかな雰囲気の中、里子も交えて懇親会を行い、最後に学内を見学いただきました。



相見良成 教授



講演の様子



懇親会の様子



記念撮影

お忙しい中、ご出席いただきました皆様、ありがとうございました。

※滋賀医科大学地域里親学生支援事業は、1人でも多くの卒業生に滋賀県内の医療に従事することを目的とし、深刻化する地方の医師・看護師不足の解決を目指す取り組みを行っています。

今回の研修会・交流会は、里親（県内で活躍されている医療従事者）・プチ里親（地域の皆様）・里子（この制度の登録学生）が交流し、医療人としての心構え、地域医療の現状などを伝える場として毎年1回開催しています。

（この研修は、NPO滋賀医療人育成協力機構との共催で実施しました。）

## 「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2025 第五弾を開催します。

2025年 12月5日

里親学生支援室では、医学・看護学教育センター・滋賀県医師キャリアサポートセンター・滋賀医療人育成協力機構と共催で、主に医学生など医療系学生、初期研修医の皆さんを対象にした講演会を開催します。ぜひご参加ください。

\*\*\*\*\*

### 何か専門を取ってから総合診療へ行ったほうがいいと言われましたが、 そうなんですか？～ダブルボードとか EBM とかってカッコいいですね～

医学・看護学教育センターです。今回のご案内は、今年度最後になります第五弾！のご案内です。  
聖母病院 総合診療科から南郷 栄秀先生をお迎えします。  
今回は会場である第1講義室で南郷先生を交えて懇親会も予定しています。

#### 【概要】

総合診療・家庭医療に興味はあるけれど、「将来に不安があるな」、「まずは専門医を取るべき」  
「ダブルボードが有利」といった言葉に迷っていませんか。

本講演では、市中病院で働く総合診療医が、自身のこれまでのキャリアを振り返りながら、総合診療・家庭医療とは何か、ダブルボードのメリット・デメリット、専門志向とのバランス、EBM の考え方と総合診療・家庭医療との親和性などについて率直にお話しします。

「結局、自分はどう決めればいいのか」を一緒に考えたい学生や若手医師のみなさんの参加を歓迎します。

事前に質問を受け付けます。お寄せいただいた質問に、可能な限り当日（懇親会でも！）お答えします。以下のフォームから気軽にお寄せください。  
<https://forms.gle/dcsKaAoGDmpwz49L9>

低学年から高学年まで、たくさんの方々のご参加をお待ちしています！

#### 記

◆日 時:2025 年 12 月 26 日(金)16:30～18:30

◆場 所:第一講義室

◆講師紹介:

聖母病院 総合診療科

### 南郷 栄秀 先生

東京生まれ東京育ち。名称変更で消滅した東京医科歯科大学医学部医学科卒業。  
専門は総合診療、EBM、医学教育。都市部小病院での総合診療に従事しながら、正しい EBM の理解普及をライフワークに活動中で、秋の全国ツアーファイナルに滋賀医大初公演します。

## 🔊 申込方法 🔊

①WebClass にて受付をいたします。

[https://latte.shiga-](https://latte.shiga-med.ac.jp/webclass/login.php?id=70bda7e2b0f8c6565558166c8245849d&page=1&auth_mode=SHIB)

[med.ac.jp/webclass/login.php?id=70bda7e2b0f8c6565558166c8245849d&page=1&auth\\_mode=SHIB](https://latte.shiga-med.ac.jp/webclass/login.php?id=70bda7e2b0f8c6565558166c8245849d&page=1&auth_mode=SHIB)

②申し込み期間: **～12/23(火)13:00 まで**

以上

「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ2025 第五弾！

「何か専門を取ってから総合診療へ行ったほうがいいと言われましたが、  
そうなんですか？～ダブルボードとかEBMとかってカッコいいですね～」

2025 **12月26日(金)**

時間 16:30～18:30

会場 第1講義室

対象 医学科・看護学科学生、研修医

総合診療・家庭医療に興味はあるけれど、「将来に不安があるな」、「まずは専門医を取るべき」「ダブルボードが有利」といった言葉に迷っていませんか。本講演では、市中病院で働く総合診療医が、自身のこれまでのキャリアを振り返りながら、総合診療・家庭医療とは何か、ダブルボードのメリット・デメリット、専門志向とのバランス、EBMの考え方と総合診療・家庭医療との親和性などについて率直にお話します。「結局、自分はどう決めればいいのか」を一緒に考えたい学生や若手医師のみなさんの参加を歓迎します。



聖母病院 総合診療科  
南郷 栄秀 先生

東京生まれ東京育ち。名称変更で消滅した東京医科歯科大学医学部医学科卒業。  
専門は総合診療、EBM、医学教育。都市部小病院での総合診療に従事しながら、正しいEBMの理解普及をライフワークに活動中で、秋の全国ツアーファイナルに滋賀医大初公演します。

共催  
滋賀県医師キャリアサポートセンター 医学・看護学教育センター  
NPO法人 滋賀医療人育成協力機構 里親学生支援室

申し込みはこちらから

低学年も是非参加して下さい！

締め切りは **12/23 (火) 13:00** まで  
WebClassから氏名・学科・学年を記載して申込をしてください。



講演後、懇親会を同会場にて開催します。  
是非ご参加ください。

事前に質問を受け付けます

お寄せいただいた質問に、可能な限り当日（懇親会でも！）  
お答えします。左のQRコードから気軽にお寄せください。



お問い合わせ

滋賀医科大学

医学・看護学教育センター

URL: <http://shiga-med.ac.jp>

☎: 077-548-2754

✉: [hqrinkyo@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:hqrinkyo@belle.shiga-med.ac.jp)

## 「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2025 第三弾！を実施しました。

2025年 12月5日

2025 年 10 月 30 日（木）17 時から「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2025 第三弾！をハイフレックス式で実施し、当日は 22 名の参加がありました。

今回は、石川県輪島市（奥能登）にある ごちゃまるクリニック 院長 小浦 友行先生から「災害とともに生きる～フェーズレスな災害対応とプライマリ・ケアの実践～」をテーマにご講演いただきました。

地元の地域医療に貢献したいという想いで、家庭医の夢を実現し、開業 1 年で震災に遭われた当時の緊迫した体験談や、先生ご自身も被災された中での医療活動についてお話しいただきました。

被災地域での医療活動や、インフラの中での看護と介護の大切さ、また、避難所においても、子どもがストレスを抱えないように子ども部屋を作ったりと、病人だけではなく、地域住民のケアにも取り組まれ、プライマリ・ケアの大切さについてお話しいただきました。

参加学生からは「甚大な災害を受けた地域の診療所の医師が、生身をもって経験されたことをお聞きできたのは非常に貴重で、またとない機会でした。」といった感想があり、本講演は盛況のうちに終了しました。



（この講演は 医学・看護学教育センター、滋賀県医師キャリアサポートセンター、NPO 法人 滋賀医療人育成協力機構との共催で実施しました）

2025年10月16日（水）18時から「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2025 第二弾！を実施し、学部生 16 名、大学院生 2 名、研修医 1 名、医師 1 名、教職員 4 名の合計 24名の参加がありました。

今回は、島根大学医学部地域医療学講座の孫 大輔先生、株式会社 CNC・コミュニティナースの多々納 知鶴先生をお招きしました。

まず初めに、多々納 知鶴先生から「“まち”に出て“つながり”でケアする～おせっかいと社会的処方～」をテーマにコミュニティナースの在り方について、ご講演いただきました。

地域住民の方のくらしの導線上で地域の方と出会う取り組みや、住民の方との関わり方や背中への押し方など、地域の方と一緒に『心と身体健康と安心』を目指す、まちのみんなの良いい“おせっかい”＝コミュニティナースの取り組みについて、事例を交えてご説明していただきました。

ご説明の最後に、それぞれが考える個人の情熱、地域に求められる期待や役割、実践の可能性について考え、意見を出し合いました。



続いて、孫 大輔先生から「地域志向のプライマリケア-社会的処方と文化的処方-」をテーマに地域医療の取り組みについて、ご講演いただきました。

地域志向性とプライマリケアの大切さや、病院で待っているだけではなく、自らが地域の中へ出向き、地域住民とのコミュニケーションを取りながら「ゆるいつながり形成」を支えていく取り組みについて、孫先生が立ち上げられたプロジェクトをご説明いただきました。

また、地域医療に従事しながらも、教育・研究活動、地域の活動にも取り組まれ、短編映画の制作など、多岐にわたって活躍されているお話をいただきました。



参加学生からは『コミュニティ「ナース」、文化的「処方」など、既存のコミュニティや文化活動に医療の要素が加わることの意味や価値を、考えさせられました。』といった感想があり、本講演は盛況のうちに終了しました。

（この講演は 医学・看護学教育センター、滋賀県医師キャリアサポートセンター、NPO 法人 滋賀医療人育成協力機構との共催で実施しました）

## 「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2025 第四弾を開催します。

2025年10月31日

里親学生支援室では、医学・看護学教育センター・滋賀県医師キャリアサポートセンター・滋賀医療人育成協力機構と共催で、主に医学生など医療系学生、初期研修医の皆さんを対象にした講演会を開催します。ぜひご参加ください。

\*\*\*\*\*

### オープンダイアログを通して考えるチーム での対話のあり方

医学・看護学教育センターです。今回のご案内は、「学内で地域医療の体験ができるシリーズ」2025 第四弾！です。

浅井東診療所から北川景都さん、寺村育美さん、川瀬佳奈さんをお迎えします。

#### 【概要】

診療所には「一人では解決できない悩み・課題」を抱えてやってくる患者さんがたくさんいます。悩んでいる人を前に、私たちは「良い解決に向けてアドバイスをしないと」と思ってしまいます。しかし、時には良いアドバイスよりも、ただみんなで対話をすることが状況をよくすることがあります。そのような考え方・対話方法の一つであるオープンダイアログについて実際の事例を交えながらお話した後、ワークを通して体感してもらいます。

課外授業シリーズでは、地域医療をいろんな角度から知ることができます。低学年から高学年まで、たくさんの方々のご参加をお待ちしています！

今回は、タリーズコーヒーの軽食を提供させていただきます。軽食の数を確認したいので、申込制とさせていただきます。WebClass から申し込みをしてください。詳細は下記になります。

#### 記

◆日 時:2025 年 11 月 21 日(金)16:30～18:00

◆場 所:第一講義室

◆講師紹介:

浅井東診療所メンタルヘルスチーム「ここくら」

北川景都さん、寺村育美さん、川瀬佳奈さん

私たちは滋賀県長浜市にある浅井東診療所のメンタルヘルスチーム「ここくら」のメンバーです。医師・看護師・ソーシャルワーカーからなるチームですが、患者さんも支援者もその肩書きにとらわれずフラットな関係性で対話をするを大切にしています。

2024 年 9 月より始動し、オープンダイアログの実践と院内のメンタルヘルス診療のシステム作りを行なっています。

## 📢 申込方法 📢

①WebClass にて受付をいたします。

[https://latte.shiga-](https://latte.shiga-med.ac.jp/webclass/login.php?id=93d6ee8a47f04a1d89c99847e92ab94e&page=1&auth_mode=SHIB)

[med.ac.jp/webclass/login.php?id=93d6ee8a47f04a1d89c99847e92ab94e&page=1&auth\\_mode=SHIB](https://latte.shiga-med.ac.jp/webclass/login.php?id=93d6ee8a47f04a1d89c99847e92ab94e&page=1&auth_mode=SHIB)

②申し込み期間: ~10/27(月)13:00 まで

以上

「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ2025 第四弾！

# オープンダイアログを通して考えるチームでの対話のあり方

2025. **11月21日(金)** 16:30~18:00

**会場** 第1講義室  
**対象** 医学科・看護学科学生、研修医  
**講師** 浅井東診療所 メンタルヘルスチーム「ここくら」  
北川景都さん、寺村育美さん、川瀬佳奈さん

私たちは滋賀県長浜市にある浅井東診療所のメンタルヘルスチーム「ここくら」のメンバーです。医師・看護師・ソーシャルワーカーからなるチームですが、患者さんも支援者もその肩書きにとらわれずフラットな関係性で対話することを大切にしています。2024年9月より始動し、オープンダイアログの実践と院内のメンタルヘルス診療のシステム作りを行なっています。

**申し込みはこちらから** 低学年も是非参加して下さい！

締め切りは **11/17(月) 13:00** まで

WebClassから氏名・学科・学年を記載して申込をしてください。





診療所には「一人では解決できない悩み・課題」を抱えてやってくる患者さんがたくさんいます。悩んでいる人を前に、私たちは「良い解決に向けてアドバイスをしないと」と思ってしまう。しかし、時には良いアドバイスよりも、ただみんなで対話することが状況をよくすることがあります。そのような考え方・対話方法の一つであるオープンダイアログについて実際の事例を交えながらお話しした後、ワークを通して体感してもらいます。

**共催**  
滋賀県医師キャリアサポートセンター 医学・看護学教育センター  
NPO法人 滋賀医療人育成協力機構 里親学生支援室

**お問い合わせ**  
滋賀医科大学  
医学・看護学教育センター ☎ : 077-548-2754  
URL : <http://shiga-meduc.com> 📧 : [hqrinkyo@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:hqrinkyo@belle.shiga-med.ac.jp)

## 【ご案内】学外研修会・意見交換会のご案内

「里親」・「プチ里親」にご登録いただいているみなさま方へ

滋賀県に勤務されている 医師・看護師・保健師・助産師のみなさま方へ

里親学生支援室では、下記のとおり「里親学生支援事業」の一環として学外研修会・意見交換会を開催いたします。

本会は、日頃お世話になっている皆さまと里親学生支援室員や里親事業登録学生との意見交換や交流の場としております。

寒さ厳しい頃とは存じますが、事業に対するご意見等を賜りたく、お時間のご都合がございましたら、是非ともご出席くださいますようご案内いたします。

### 記

日 時 : 令和7年12月7日(日) 午前11時00分～午後2時00分頃まで

会 場 : 滋賀医科大学 SUMSキッチン(福利棟1階)

滋賀県大津市瀬田月輪町 TEL 077-548-2072

※瀬田駅より送迎車をご用意させていただきます。

送迎車をご利用の場合、事前予約制とさせていただきますので、参加のご連絡時に併せてお申込みください。

〔行き 瀬田駅 10:30 分発、帰り 交流会終了後〕

講 演 : 「本学の歴史及び里親学生支援事業のこれからの取り組みと方向性について(仮)」

里親学生支援室長 相見 良成 教授

その他 : 当日は学生も参加します。講演の後、軽食をとりながらの交流を予定しています。

お申込みは、11月14日(金)までに 里親学生支援室にご連絡ください。

## 「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2025 第三弾を開催します。

2025年10月3日

里親学生支援室では、医学・看護学教育センター・滋賀県医師キャリアサポートセンター・滋賀医療人育成協力機構と共催で、主に医学生など医療系学生、初期研修医の皆さんを対象にした講演会を開催します。ぜひご参加ください。

\*\*\*\*\*

### 災害とともに生きる～フェーズレスな災害対応と プライマリ・ケアの実践～

医学・看護学教育センターです。今回のご案内は、「学内で地域医療の体験ができるシリーズ」2025 第三弾！です。

能登のごちゃまるクリニックから小浦友行先生をお迎えします。

令和6年元旦の能登半島地震、そして9月21日に発災した奥能登豪雨により当院とその周辺地区は甚大な被害と深刻なトラウマを経験した。加えて、演者は輪島市本町朝市通り出身であり、震災関連火災でふるさとのまちも失った。当日は、被災地ど真ん中の家庭医が、未曾有の複合災害で公私ごちゃまるでマイクロ・メゾでどのようなプライマリ・ケアを提供し続けているかをお話いたします。

課外授業シリーズでは、地域医療をいろんな角度から知ることができます。低学年から高学年まで、たくさんの方々のご参加をお待ちしています！

今回は、Zoomをつかったハイフレックス式で開催します。Zoomからの参加、会場での参加どちらでも参加いただけます。会場での参加の方には、軽食🍷🍴を提供させていただきます。是非参加してください。

#### 記

◆日 時:2025年10月30日(木)17:00～19:00

◆場 所:第一講義室

Zoomによるハイフレックス式

◆講師紹介:

ごちゃまるクリニック 小浦 友行 先生

石川県輪島市本町朝市通り出身。

1999年富山医科薬科大学医学部入学。

2007年より富山大学総合診療部、災害・救命センター、富山プライマリ・ケア講座を歴任し、住民・行政・地域専門職のごちゃまぜまるごとの支えあいの楽しさを知る。

2017年に故郷輪島に帰省。公立穴水総合病院勤務医、医療法人社団オレンジを経て

2022年12月よりごちゃまるクリニック院長として故郷の地域ケアを開始。

2024年、能登半島地震、奥能登豪雨の複合被災を経ながらも同年10月に一般社団法人ごちゃらあとを立ち上げ。

現在復興の地域ケアを地域の皆様とともに実践。

## 🔊 申込方法 🔊

①WebClass にて受付をいたします。

[https://latte.shiga-](https://latte.shiga-med.ac.jp/webclass/login.php?id=93d6ee8a47f04a1d89c99847e92ab94e&page=1&auth_mode=SHIB)

[med.ac.jp/webclass/login.php?id=93d6ee8a47f04a1d89c99847e92ab94e&page=1&auth\\_mode=SHIB](https://latte.shiga-med.ac.jp/webclass/login.php?id=93d6ee8a47f04a1d89c99847e92ab94e&page=1&auth_mode=SHIB)

②申し込み期間: ~10/27(月)13:00 まで

以上

「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ2025 第三弾！

災害とともに生きる

～フェーズレスな災害対応とプライマリ・ケアの実践～

2025. **10/30 (木)**

講師 ごちゃまるクリニック 小浦 友行先生 **17:00～19:00**

会場 ハイフレックス式・第1講義室

対象 医学科・看護学科学生（低学年可）、研修医

地震、豪雨、そして現在-未曾有の災害に立ち向かった能登の家庭医

令和6年元旦の能登半島地震、そして9月21日に発災した奥能登豪雨により当院とその周辺地区は甚大な被害と深刻なトラウマを経験した。加えて、演者は輪島市本町朝市通り出身であり、震災関連火災でふるさとのまちも失った。当日は、被災地と真ん中の家庭医が、未曾有の複合災害で公私ごちゃまるでミクロ・メゾでどのようなプライマリ・ケアを提供し続けているかをお話しいたします。

### 共催

滋賀県医師キャリアサポートセンター 医学・看護学教育センター  
NPO法人 滋賀医療人育成協力機構 里親学生支援室



能登震災×豪雨-災害下で地域医療は何ができるのか？



石川県輪島市本町朝市通り出身。

1999年富山医科薬科大学医学部入学。

2007年より富山大学総合診療部、災害・救命センター、富山プライマリ・ケア講座を歴任し、住民・行政・地域専門職のごちゃまぜまるごとの支えあいの楽しさを知る。

2017年に故郷輪島に帰省。公立穴水総合病院勤務医、医療法人社団オレンジを経て2022年12月よりごちゃまるクリニック院長として故郷の地域ケアを開始。2024年、能登半島地震、奥能登豪雨の複合被災を経ながらも同年10月に一般社団法人ごちゃらあとを立ち上げ。

現在復興の地域ケアを地域の皆様とともに実践。

申し込みはこちらから

軽食をご用意しています。

締め切りは **10/27 (月) 13:00** まで

[WebClass](#)から氏名・学科・学年を記載して申込をしてください。



### お問い合わせ

滋賀医科大学 医学・看護学教育センター ☎ : 077-548-2754

URL : <http://shiga-meduc.com>

✉ : [hqrinkyo@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:hqrinkyo@belle.shiga-med.ac.jp)

## 【ご案内】学園祭での地域「里親」ブース設置について

2025年10月2日

里親学生支援室では、「学園祭（若鮎祭）」期間中に『地域「里親」ブース』をNPO法人滋賀医療人育成協力機構と合同で設け、事業の紹介や活動内容等がご覧いただける写真等の展示を行います。  
お時間のご都合がございましたら、是非お越しく下さい。

### ブース開設時間

#### 「学園祭（若鮎祭）」

日時： 令和7年10月25日（土）10：00～16：00

10月26日（日）10：00～16：00

場所： 滋賀医科大学 福利棟1階入り口付近

里親学生支援室からのお知らせ

10/25(土)・26(日)

# 学園祭(若鮎祭)での地域「里親」ブース設置のご案内



地域「里親」学生支援事業とは??

将来地域(滋賀)での医療活動を志す医学生を、地域で活躍する医師・看護師・助産師・保健師や地域住民が「里親」・「フ千里親」となって支援することで、地域医療にたずさわる医療人として養成し、深刻化する地方の医師不足・看護師不足の解決をめざすための事業です!!

どんな活動をしているの?

里親事業として14回目の卒業生11名を送り出し、現在、74人の学生に対して里親79人、フ千里親9人の先生方にご登録いただいております。里親の先生方にはメールなどを通じて学生と交流していただいております。また、里親・フ千里親・教職員は学内外を問わず学生支援のための研修会を実施し、滋賀の医療の現状についての知識を共有する機会を設けています。8月には彦根市・米原市方面への宿泊研修を実施し、学生たちには地域医療の現状や歴史・文化等を学んでもうもらいました。

12月…交流会・意見交換会(里親・フ千里親・教職員)

3月…甲賀市・湖南市方面での宿泊研修

などなど…

今後の予定は?

**里親・フ千里親としてご協力いただける方、随時募集中!!**



**⑤福利棟1階**

## 若鮎祭期間中

<https://www.shiga-med.ac.jp/wakaayu/>

<10/25(土)・26(日)>

左記の矢印の場所に、NPO 法人滋賀医療人育成協力機構と合同でブースを設けておりますので是非越し下さい!

宿泊研修などの活動内容を  
展示しております!

※ブース開設時間は次の通りです  
10/25(土)・26(日) 10:00~16:00

↓↓詳しくは 下記問合せ先まで ↓↓

【問合せ先】 滋賀医科大学 里親学生支援室(学務課内)

TEL 077-548-2072 FAX 077-548-2799

Eメール:safooya@belle.shiga-med.ac.jp <https://www.shiga-med.ac.jp/~safooya/>

## 「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2025 第二弾を開催します。

2025年9月19日

里親学生支援室では、医学・看護学教育センター・滋賀県医師キャリアサポートセンター・滋賀医療人育成協力機構と共催で、主に医学生など医療系学生、初期研修医の皆さんを対象にした講演会を開催します。ぜひご参加ください。

\*\*\*\*\*

### コミュニティナース×総合診療医 “まち”に出て“つながり”でケアする～おせっかいと社会的処方～

課外授業シリーズ 2025 の第二弾の案内になります。

今回は、島根大学医学部地域医療学講座の孫大輔先生、株式会社 CNC・コミュニティナースの多々納知鶴先生をお招きします。

病院の外、まちの中で人と人がつながり、暮らしのそばで健康を支えるケアを知っていますか？

今回の講演会では、コミュニティナースと総合診療医のお二人から、地域で実際に行われている“つながりのケア”について学びます。

「どうやって地域に入って行けばいいの？」「自分に何ができるんだろう？」そんな思いにヒントとエールを届ける時間です！

課外授業シリーズでは、地域医療をいろんな角度から知ることができます。

低学年から高学年まで、たくさんの方々のご参加をお待ちしています！

今回は、軽食🍷🍷🍷を提供させていただきます。是非参加してください。軽食の数を確認したいので、申込制とさせていただきます。WebClass から申し込みをしてください。

詳細は下記になります。

#### 記

◆日 時:2025 年 10 月 16 日(木)18:00～20:00

◆場 所:第一講義室

◆講師紹介:

鳥取大学医学部地域医療学講座 准教授

日本プライマリ・ケア連合学会認定 家庭医療専門医

一般社団法人コミュニティウェルビーイング研究所代表理事

孫 大輔 先生

総合診療医(家庭医)。これまで一貫して、地域における対話とウェルビーイングをテーマに活動してきた。2020年に東京から鳥取県大山町に移住。現在、地域医療に従事しながら、教育・研究活動や地域活動に従事。これまで医療をテーマとした短編映画を3本制作した経験がある。著書に『対話する医療—人間全体を診て癒すために』(さくら舎, 2018年)、『臨床と宗教—死に臨む患者へのスピリチュアルケア』(南山堂, 2023年)、『ダイアログ〈対話〉のはじめかた:医療・福祉にかかわる人のための対話哲学レッスン』(医歯薬出版, 2024)など。

株式会社 CNC

多々納 知鶴先生

島根県出雲市出身。島根大学医学部看護学科卒業。学生時代にコミュニティナースに出会い、インターンを経て2022年からCommunity Nurse Company(現:株式会社 CNC)に就職。地域のコミュニティナース実装に加え、雲南市で実施する「地域おせっかい会議」のマネジメントも担う。

📄 申込方法 📄

①WebClass にて受付をいたします。

[https://latte.shiga-](https://latte.shiga-med.ac.jp/webclass/login.php?id=96afa1453d3c40e99743d20b93cdd156&page=1&auth_mode=SHIB)

[med.ac.jp/webclass/login.php?id=96afa1453d3c40e99743d20b93cdd156&page=1&auth\\_mode=SHIB](https://latte.shiga-med.ac.jp/webclass/login.php?id=96afa1453d3c40e99743d20b93cdd156&page=1&auth_mode=SHIB)

②申し込み期間: ～10/9(木)13:00 まで

\*\*\*\*\*

国立大学法人 滋賀医科大学

医学・看護学教育センター

〒520-2192

滋賀県大津市瀬田月輪町

TEL:077-548-2754

FAX:077-548-2296

E-mail:hqrinkyo@belle.shiga-med.ac.jp

\*\*\*\*\*

「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ2025 第二弾！

## コミュニティナース×総合診療医 “まち”に出て“つながり”でケアする ～おせっかいと社会的処方～

病院の外、まちの中で人と人がつながり、暮らしのそばで健康を支えるケアを知っていますか？  
今回の講演会では、コミュニティナースと総合診療医のお二人から、地域で実際に行われている“つながりのケア”について学びます。  
「どうやって地域に入って行けばいいの？」「自分に何ができるんだろう？」そんな思いにヒントとエールを届ける時間です！

2025. **10月16日(木)**

**18:00～20:00**

**場所：第一講義室**

申し込みはこちらから

締め切りは **10/9(木) 13:00** まで  
WebClassから氏名・学科・学年を記載して申込をしてください。



共催 滋賀県医師キャリアサポートセンター 医学・看護学教育センター  
NPO法人 滋賀医療人育成協力機構 里親学生支援室

総合診療医（家庭医）。これまで一貫して、地域における対話とウェルビーイングをテーマに活動してきた。2020年に東京から鳥取県大山町に移住。現在、地域医療に従事しながら、教育・研究活動や地域活動に従事。これまで医療をテーマとした短編映画を3本制作した経験がある。著書に『対話する医療—人間全体を診て癒すために』（さくら舎、2018年）、『臨床と宗教—死に臨む患者へのスピリチュアルケア』（南山堂、2023年）、『ダイアログ（対話）のはじめかた：医療・福祉にかかわる人のための対話哲学レッスン』（医歯薬出版、2024年）など。



● 講師 孫 大輔 先生  
鳥取大学医学部 地域医療学講座 准教授  
日本プライマリ・ケア連合学会認定 家庭医療専門医  
一般社団法人コミュニティウェルビーイング研究所代表理事



島根県出雲市出身。島根大学医学部看護学科卒業。学生時代にコミュニティナースに出会い、インターンを経て2022年からCommunity Nurse Company（現：株式会社 CNC）に就職。地域のコミュニティナース実装に加え、雲南市で実施する「地域おせっかい会議」のマネジメントも担う。

● 講師 多々納 知鶴 様 株式会社CNC



軽食 🍷 を食べながら一緒にお話しませんか？

お問い合わせ  
滋賀医科大学  
医学・看護学教育センター ☎ : 077-548-2754  
URL : <http://shiga-meduc.com> 📧 : [hqrinkyo@belle.shiga-med.ac.jp](mailto:hqrinkyo@belle.shiga-med.ac.jp)

## 彦根市・米原市地域の医療と歴史・文化を学ぶ宿泊研修を実施しました。

2025年9月2日

8月25日(月)～26日(火)に、彦根市・米原市地域を訪問させていただいた夏の宿泊研修には、学生27名（滋賀医科大学医学科第1～3学年14名、看護学科第1～3学年7名、滋賀県立大学1～4年生6名）が参加しました。

### 【1日目】

#### ・彦根市地域の方とのワークショップ

1日目の午前中は、彦根保健所の協力のもと彦根市の地域の方とのワークショップを開催しました。

まず初めに、彦根保健所の平野所長から保健所の概要を説明いただき、保健所と病院の違いなどをお話しいただきました。

次に今回ご協力いただきました『認定NPO法人サタデーピア ピアサポートクラブ』、『彦根市精神障害者家族会集まろう会』、『滋賀県断酒同友会』、『日本ALS協会滋賀県支部』の方々から、ご自身の体験談を交えながら活動の内容などをご紹介いただきました。精神障害（疾患）の理解の大切さや、何でも話せる場所の必要性などを学ぶことができました。

また、各団体の方を交えグループワークを行い、学生からの質問にも熱心にお答えいただきました。



#### ・米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」にて研修

午後からは米原・近江地域の地域包括ケアの拠点となる米原市地域包括医療福祉センター「ふくしあ」を訪問しました。中村センター長から病院の概要、実例を交えながら米原市の地域包括ケアの取り組みの歴史や、米原市初の病児保育の実現など、働く世代の構築などについてお話しいただきました。

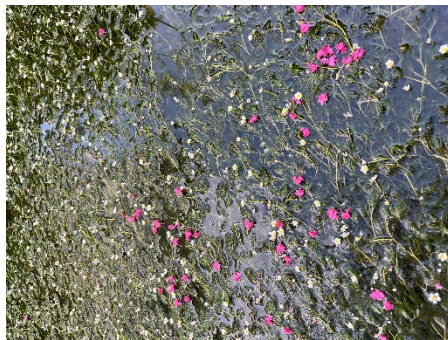
休憩時間にも学生からの質問に答えていただき、中村先生の地域医療への取り組みについて参加学生の関心の高さを伺うことができました。



#### ・地域散策

一日目の最後は中山道の61番目の宿場として栄えてきました醒井宿を散策しました。湧き水が豊富でその水で形成された地蔵川に沿う形で町が作られ、多くの旅人を癒してきたその歴史記的な背景や古くからの宿場町の町並みを残していることから、日本遺産にも指定されています。

地蔵川には梅花藻が自生しており、猛暑の中の散策となりましたが、可愛い白やピンクの花を見ることができ、少し涼を感じることができました。



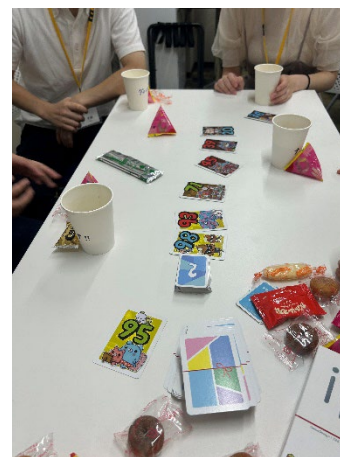
・交流会

夜は、彦根市内にある魚清にて交流会を開催しました。

訪問先の関係者の方々やプチ里親の方にご参加いただき学生と交流をはかっていただきました。  
貴重な意見交換、懇談の場となりました。



引き続き、宿泊先のホテルに戻り、学生のみで交流会を開催しました。本学学生・滋賀県立大の学生がグループに分かれて交流しました。



## 【2日目】

### ・彦根市立病院にて研修

2日目の午前中は湖東地域の中核病院である彦根市立病院を訪問しました。

彦根市立病院では、中野院長からご挨拶いただいた後、病院の概要について説明をいただきました。病院毎の役割、病院の環境を守りつつ住民に愛される病院づくりの大切さ、今後この地域で完結できる医療体制の構築などをお話しいただきました。

続いて、在宅診療科の笹尾部長から、在宅診療についてご説明いただいた後、地域連携センターの西村副参事に看護師特定行為の実際の症例を交えて説明いただきました。

最後に、3班に分かれて救急、循環器内科、手術室、ヘリポートなど院内を見学させていただきました。



### ・地域散策

2日目の地域散策は彦根城を訪れました。

いろは松の近くの駐車場から15分ほど歩き、複数あるやぐらをくぐり抜けて彦根城のシンボルである天守へ向かいました。残念ながらひこにゃんに出会うことは出来ませんでしたが、それぞれ思い思いに天守内部や城内の庭園などを見学しました。





#### ・地域包括ケアセンターいぶきにて研修

研修の最後は、米原市の山東・伊吹地域の地域包括ケアの拠点となる地域包括ケアセンターいぶきを訪問しました。畑野センター長からセンターの概要やセンター建設の経緯など説明いただきました。医療と介護を用いた施設であること、家で診ることを大事にしているため、ベッドを持たない無床診療所であることなど、医療者のための医療ではなく住民に喜ばれる・評価される医療であることが大事と学生へお話しいただきました。

その後、2班に分かれて、センター内を見学させていただきました。リハビリ施設やお風呂場など利用者の方が安全に使いやすい工夫がされていたのが印象的でした。



今回も、地域の方々をはじめ、たくさんの医療関係者の方々にご協力いただき、地域医療について学びの多い研修となりました。この場をお借りして、ご協力頂きました皆様方に厚く御礼申し上げます。

豊かな自然に恵まれ、彦根市・米原市の方々の暖かな人柄に触れ、今回の研修を通じて、地域医療に従事する学生が一人でも多く活躍してくれることを切に期待しています。

(この研修は、NPO法人滋賀医療人育成協力機構及び滋賀県医師キャリアサポートセンターとの協同で実施しました。)

## 地域理解・交流事業「宿泊研修」日程決定（令和7年8月25日～26日開催）

2025年7月29日

### 地域理解・交流事業「宿泊研修」日程

～彦根市・米原市方面の医療と歴史・文化を学ぶ～

#### ● 8月25日（月）

- 9:00 大学出発  
↓  
10:30～13:30 彦根市地域の方との交流会・昼食（ホテルサンルート彦根）  
↓  
14:00～15:30 米原市地域包括医療福祉センターふくしあ（説明・見学）  
↓  
15:50～16:20 醒ヶ井（梅花藻）地域散策  
↓  
18:00～20:00 懇親会（魚清）

|                                            |
|--------------------------------------------|
| 【宿泊先】 東横 INN<br>彦根市駅東町 2-1 Tel0749-21-1045 |
|--------------------------------------------|

#### ● 8月26日（火）

- 9:00 ホテル出発  
↓  
9:30～11:00 彦根市立病院（説明・見学）  
↓  
11:15～13:30 彦根城散策・昼食  
↓  
14:00～15:30 地域包括ケアセンターいぶき（説明・見学）  
↓  
17:30 大学帰学

「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2025 第一弾！を実施しました。

2025年7月22日

2025年7月2日（水）16時30分から「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2025 第一弾！を実施しました。

今回は、竜王町にある訪問看護ステーションゆげ 訪問看護認定看護師 雨森 千恵美先生をお招きし、「訪問看護の魅力をたっぷり味わいながら・・・多職種連携のコツをつかもう」をテーマに訪問看護の実際や多職種連携についてご講演いただきました。

当日は学部生 21 名、大学院生 1 名、教職員 10 名の合計 32 名の参加がありました。

利用者の方やご家族の方、近隣住民、地域の関係者も援助の対象とし、利用者お一人ではなく周りの方々にも目を配りケアすることの大切さや、訪問薬剤、訪問介護、訪問リハビリテーションなど、それぞれの役割について、利用者の方の希望に添い、最後を迎えられるように多職種でのチーム連携の大切さを教えていただきました。

また、福祉専門職を中心としたDWAT（災害派遣福祉チーム）にも所属され、能登の災害現場に派遣された時の経験を交え、災害現場での訪問看護師の役割の大切さをお話いただきました。

講演の後半には、学生同士で「これからの多職種連携には何が重要なのか？」などをテーマにグループディスカッションを行いました。

参加学生からは「生きがいを持つことが生きる活力となることがよく分かり、利用者さん一人ひとりと密接に関わりそのサポートができる在宅医療の良さを感じた。」といった感想があり、本講演は盛況のうちに終了しました。



（この講演は 医学・看護学教育センター、滋賀県医師キャリアサポートセンター、NPO 法人 滋賀医療人育成協力機構との共催で実施しました）

## 「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ 2025 第一弾を開催します。

2025年5月21日

里親学生支援室では、医学・看護学教育センター・滋賀県医師キャリアサポートセンター・滋賀医療人育成協力機構と共催で、主に医学生など医療系学生、初期研修医の皆さんを対象にした講演会を開催します。ぜひご参加ください。

\*\*\*\*\*

### 訪問看護の魅力をたっぷり味わいながら・・・ 多職種連携のコツをつかもう

今年度も始まります、「学内で地域医療の体験ができるシリーズ」です。  
訪問看護ステーションゆげから雨森 千恵美先生をお迎えします。

訪問看護の事例を通して実際にイメージして頂き、これからの訪問看護と一緒に考えていきたいと思います。また、在宅療養の質を向上する上で求められる多職種連携についてもディスカッションできたらと考えています

訪問看護って実際にどんなことをするんだろうと思っている看護学科の皆様、是非ご参加ください。また医学科の学生や研修医の方も訪問看護師から見たお話を聴いてこれからの役立ててみませんか。是非一歩成長してください。

課外授業シリーズでは、地域医療をいろんな角度から知ることができます。低学年から高学年まで、たくさんの方々のご参加をお待ちしています！詳しくは当日の講義を楽しみにしててください！

今回は、お菓子🍪🍩を提供させていただきます。是非参加してください。お菓子の数を確認したいので、申込制とさせていただきます

記

◆日 時:2025 年 7 月 2 日(水)16:30～18:00

◆場 所:第一講義室

◆講師紹介:

訪問看護ステーションゆげ

管理者訪問看護認定看護師 雨森 千恵美 先生

在宅医療をこよなく愛し日々やりがいを持って看護を行ってきました。

在宅看取りの実際、災害支援、フィールドバックカンファレンスの普及など実際の訪問看護の様子を聞いて頂きながら皆さんとディスカッション出来たら嬉しいです。

◆対 象:医学科・看護学科学生、研修医

## 📄 申込方法 📄

①WebClass にて受付をいたします。

[https://latte.shiga-med.ac.jp/webclass/login.php?id=0d87c5a92315b5b84ba8e1639c8790ed&page=1&auth\\_mode=SHIB](https://latte.shiga-med.ac.jp/webclass/login.php?id=0d87c5a92315b5b84ba8e1639c8790ed&page=1&auth_mode=SHIB)

②申し込み期間: ~6/30(月)13:00 まで

\*\*\*\*\*

国立大学法人 滋賀医科大学

医学・看護学教育センター

〒520-2192

滋賀県大津市瀬田月輪町

TEL:077-548-2754

FAX:077-548-2296

E-mail:hqrinkyo@belle.shiga-med.ac.jp

\*\*\*\*\*

「学内で地域医療の体験ができる」課外授業シリーズ2025 第一弾！

訪問看護について知りたい人大募集！

訪問看護の魅力をたっぷり味わいながら・・・

多職種連携のコツをつかもう

2025. 7月2日(水) 16:30~18:00

会場 第1講義室

対象 医学科・看護学科学生、研修医



訪問看護ステーションゆげ

管理者 訪問看護認定看護師 雨森 千恵美 先生

在宅医療をこよなく愛し日々やりがいを持って看護を行ってきました。在宅看取りの実際、災害支援、フィールドバックカンファレンスの普及など実際の訪問看護の様子を聞いて頂しながら皆さんとディスカッション出来たら嬉しいです。

訪問看護の事例を通して実際にイメージして頂き、これからの訪問看護と一緒に考えていきたいと思います。  
また、在宅療養の質を向上する上で求められる多職種連携についてもディスカッションできたらと考えています。

訪問看護って実際にどんなことをするの？

申し込みはこちらから

低学年も是非参加して下さい！

締め切りは 6/30 (月) 13:00 まで

WebClassから氏名・学科・学年を記載して申込をしてください。



医学科の学生・研修医の方も訪問看護師さんの話を聴いて、これからの役立ててみませんか？

共催

滋賀県医師キャリアサポートセンター 医学・看護学教育センター  
NPO法人 滋賀医療人育成協力機構 里親学生支援室

お菓子🍬を食べながら一緒にお話しませんか？

お問い合わせ

滋賀医科大学

医学・看護学教育センター

URL: <http://shiga-meduc.com>

☎: 077-548-2754

✉: hqrinkyo@belle.shiga-med.ac.jp

## 高島市・湖西地域方面の医療と歴史・文化を学ぶ宿泊研修を実施しました。

2025年4月1日

3月18日(火)～19日(水)に、高島市・湖西地域方面を訪問させていただいた春の宿泊研修には、学生22名(滋賀医科大学医学科第1～6学年16名、看護学科第1～2学年4名、滋賀県立大学2年生2名)が参加しました。

### 【1日目】

#### ・地域散策

1日目の地域散策は安曇川町にある中江藤樹の住居跡・講堂跡である藤樹書院跡を訪問し、江戸の儒学者 中江藤樹の生涯や教えについてお話しいただきました。現在も地域の小学生達に中江藤樹の教えが引き継がれています。



#### ・まつもと整形外科にて研修

午後からは2班に分かれて、新旭町で開業されているまつもと整形外科に訪問させていただきました。松本先生からは、主に勤務医と開業医の違いについてご説明いただきました。松本先生ご自身が開業を決意されたきっかけや開業医としてのやりがい、勤務医時代のご経験や苦勞された思い出等、それぞれにメリットとデメリットがあることを教えていただきました。

地域ならではの診察内容等、具体的な医療についてのお話もしていただき、学生にとってとても興味深い内容でした。また、ご自身の自己紹介の中ではご趣味のワインやスポーツ観戦について笑いを交えてお話いただき、なごやかな雰囲気での研修となりました。



#### ・高島市訪問看護ステーションにて研修

もう一つの班は、今年度から高島市民病院と事業統合し、また、訪問看護ステーションの訪問リハビリテーションを開始された高島市訪問看護ステーションを訪問させていただきました。

訪問看護認定看護師の武内在宅療養支援部長に施設の説明を行っていただき、利用者の方のケアだけではなく、生活の中で医療・介護をどのようにプラン立てし観察していくことが大事であることや、顔色や声などから、利用者の方がどのように感じたかを考えるなど、五感を大事にしてもらいたいと学生たちにお話しいただきました。



#### ・朽木診療所にて研修

一日目の最後は、永らく滋賀県で唯一「村」であった朽木地区にある朽木診療所を訪問させていただきました。

始めに朽木地区の特徴についてお話しいただき、この地域が抱えている超高齢化問題、移動手段の確保や医師不足など様々な課題点についてもお説明いただきました。また、朽木診療所の特徴として、医師の勤務年数が短く、その度に医師が変更することについても、日頃の交流を交え、地域の方の理解を得ている旨、お話しいただきました。



#### ・交流会

夕方は、宿泊先の今津サンブリッジホテルにおいて交流会を開催しました。

交流会第1部では、高島市民病院 病院事業 在宅療養支援部長 武内美英子訪問看護認定看護師に「高島地域を知り地域に求められる医療職になろう～医療職・行政職の立場から～」と題し、ご講演いただきました。

みんなで診て、共有し、早期発見につなげることの大切さや、コミュニティの盛んな地区と希薄な地区との差の問題点についてもお話いただきました。



## 【2日目】

### ・地域散策

2日目の午前中は竹生島に行く予定をしていましたが、天候が悪く、船が欠航になったため、急遽予定を変更し、まず、マキノ町にあるメタセコイア並木を見学しました。まっすぐ伸びた県道小荒路牧野沢線の両側には、延長約 2.4km にわたりメタセコイアが約 500 本植えられ、その景観はとても雄大なものでした。季節的にはあいにくの時期でしたが、初めて訪れた学生もあり、その並木の長さに感激していました。



続いて、「われ～は湖の～子～♪」で知られる「琵琶湖周航の歌」の発祥の地である今津町の「琵琶湖周航の歌資料館」を見学しました。

琵琶湖周航の歌は、加藤登紀子さんが歌われて国民的に親しまれていますが、資料館の方の説明を受けて歌の由来や、たくさんの著名人が歌われていることについて知ることができました。



散策の最後は、今津ヴォーリズ資料館を見学しました。

現在はカフェとして利用されていますが、資料館の方の説明を受け、W. M. ヴォーリズの教えについても学ぶことができました。



#### ・今津病院にて研修

サンブリッジホテルで昼食をいただいた後、午後からの最初の研修先として、今津病院を訪問しました。今津病院は、湖西地域では唯一の回復期リハビリテーション病棟を開設するなど、高島市、大津市、長浜市から各疾患の手術後・発症後の患者さんに早期にリハビリテーションを実施し、住み慣れた自宅での療養に繋げることを目標とされています。

仁賀事務長、佐々木循環器内科部長から今津病院の概要、前川リハビリテーション室長から回復期リハビリテーション病棟の特徴、竹本課長からは地域包括ケアシステムの必要性についてお話いただきました。

佐々木循環器内科部長からは、高齢化社会の中で多職種連携の必要性や、患者さんの希望を叶えるためには、関わるスタッフの各領域のプロフェッショナルとコミュニケーションの重要性や、患者さんに伝える時は、医学用語ではなく、かみ砕いた言葉で説明できるよう、日頃からの訓練が必要であるとお話いただきました。最後に、透析センターなどの施設見学をさせていただきました。



・マキノ病院にて研修

国道161号線を北上し、最後の研修先であるマキノ病院を訪問しました。

高島市の最北部に位置するマキノ町は、町名がカタカナで表記されることから、北海道のニセコ町と姉妹都市協定を結んで盛んに交流が行われています。

マキノ病院は、湖西における最北の病院として、高島市北部の急性期救急医療を守るとともに、高島市民病院や今津病院との連携により、高島市の医療と地域包括ケアシステムに貢献されています。

研修に際し、西村病院長から病院の概要や特色についてお話をいただいたき、学生からの質問に対して、総合診療医は幅広く様々な疾患に対応する必要がある、本院ではマンパワーが不足している診療のサポート対応、回復期・慢性期の様々な疾患への対応が必要であるので、色々な経験をしてくださいとお話いただきました。また、院内を詳しく見学させていただきました。



今回も、地域の方々をはじめ、たくさんの医療関係者の方々にご協力いただき、地域医療について学びの多い研修となりました。この場をお借りして、ご協力頂きました皆様方に厚く御礼申し上げます。

豊かな自然に恵まれ、地元の方々の暖かな人柄に触れながら、この素晴らしい高島市・湖西地域で地域医療に従事する学生が一人でも多く活躍してくれることを切に期待しています。

(この研修は、NPO法人滋賀医療人育成協力機構及び滋賀県医師キャリアサポートセンターとの協同で実施しました。)